



「自転車を主役にした街づくりに 本気で取り組むべき時代が到来した」

今回は、長年にわたって我が国の自転車駐車場整備事業を牽引してきた、財団法人自転車駐車場整備センター理事長の黒川弘氏にご登場いただいた。ピーク時には全国に99万台超も存在していた放置自転車対策、自転車を介した国民の心身の健康促進、美しく機能的な街づくり、発展途上国支援、そして将来の理想的な自転車駐車場実現に向けての取り組み…。パーキング業界の明日を占う意味で非常に重要な自転車駐車場整備センターの活動は、実に多岐にわたるものだった。

財団法人自転車駐車場整備センター理事長
日本環境共生学会評議員
地域マネジメント学会企画委員長

黒川弘



森井博

『自転車・バイク・自動車駐車場 パーキングプレス』誌発行人
NPO法人日本パーキングビジネス協会理事
(サイカパーキング株式会社代表取締役)
一般社団法人自転車駐車場工業会専務理事





現役の理事長として初となる 瑞宝中綬章を受章

森井 今日の対談に先立ち、まずは、2010年春、瑞宝中綬章を受章されたことに対し、改めてお祝いの言葉を述べさせていただきます。おめでとうございます。

黒川 ありがとうございます。昭和38年に旧建設省に入省して、国土交通省を経て今年で47年が経ち、その間、国づくりに尽くしたということで今回の受章となりました。伝達式後に宮中に参りまして陛下に拝謁し、長年にわたる尽力に感謝します、という言葉いただきました。光栄の至りでした。

森井 現役の理事長職にありながらの叙勲というのは、自転車駐車場整備センターの歴史において初めてのことでした。それもまた非常に意義のあることだと思います。

黒川 もちろんこれは私一人の功績ではなく、関連団体や業界の皆様と

一緒に仕事を続けてきたことに対するの叙勲です。引き続きご協力を賜りながら、自転車駐車場整備の仕事に邁進していくつもりです。

森井 センターの理事長職に就かれる前には、どんなお仕事をされていたのですか。

黒川 三重県副知事、国土庁の防災局長、そして建設省都市局長として街づくりを取りまとめる仕事などを務めさせていただきました。都市局長を務めていた細川連立政権の時代、五十嵐広三大臣の下でさせていただいた仕事は特に印象に残っています。

森井 どのようなお仕事でしたか。

黒川 五十嵐大臣が諮問した「美しいまちづくり懇談会」の報告書に盛り込まれた「主役は市民」、「僕の家もまちの景色」といった表現に共感しましてね。市民一人ひとりが街づく

りの主役だという考え方に強く影響を受けました。

森井 理事長のご指導でセンターさんがつくられてきた自転車駐車場は、自転車を停めるための場所にとどまらず、街づくりの一環という側面もあるんですね。建設省、国土交通省時代の黒川さんの仕事が、その背景になっていると思います。では、自転車駐車場整備センターの歩みについて教えていただけますか。

黒川 はい。30年以上前の話になりますが、昭和52年11月の総理府（現内閣府）の調査で、全国の駅周辺における放置自転車の総数は67万5,000台、特に、東京圏、名古屋圏及び大阪圏の三大都市圏での放置が増えていることが分かりました。昭和50年に全国市長会が行った時の約30万台に比べて2倍以上も増加していたのです。

森井 そこまで急激に悪化した理由は何だったのでしょうか。

黒川 複合的な要因があります。第一次オイルショックによる省エネルギー、バス料金等の値上げに伴う生



活防衛、健康増進、公害問題等を背景とするバイコロジーブーム、大都市への産業、人口の集中に伴う地価高騰で、マイホームが駅から遠くなり、通勤・通学用の自転車利用が増えたことなどです。加えて、自転車価格が下がって入手しやすくなった事情に伴い、自転車駐車場は絶対的に不足していたのです。

森井 その結果、歩道の占拠、歩行者の歩行障害、緊急車両の進入阻害などが生じてしまった…

黒川 そこで、昭和51年に総理府が中心になり建設省、通産省、自治省、運輸省、文部省、警察庁が集まって、自転車駐車場の整備方策について研究を行い「自転車駐車対策について」の提言を行いました。その後も引き続き総理府を中心に協議検討を行い、昭和51年1月に「自転車駐車対策推進要領」が策定されました。昭和53年度からは街路事業として市町村が行う自転車駐車場整備の国庫

補助が認められ、民営自転車駐車場の育成策のひとつとして有料自転車駐車場事業の育成を図るため、昭和54年度に「財団法人自転車駐車場整備センター」設置が決まったのです。

森井 私どももセンターさん発足当初から表裏一体の関係でお手伝いさせていただきました。当時私はIHIで立体機械式駐車場をつくっていましたが、他のメーカーを取りまとめつつ普及を働きかけましたが…

黒川 コストや使い勝手の問題であまり普及せず、平置き、立体自走式にシフトしていきましたね。

森井 そこで必要になったのが、人による自転車駐車場の管理でした。当社では、高齢化社会への対応も含め自転車駐車場管理に従事する高齢者を募集、教育を行い、そちらの分野でも協力をさせていただきました。

黒川 センターの事業活動が軌道に乗ってきたのは第1期後半(昭和58～61年度)頃でした。この辺から明

るさが見え始めたのです。

森井 事態が好転した原因は？

黒川 議員提案による「自転車の安全利用の促進及び自転車駐車場の整備に関する法律」が昭和56年5月20日に施行され、その効果が昭和57～58年頃から現れてきた、東京都が昭和56年度に諮問した「自転車駐車問題等協議会」が、その報告書において「有料制度の導入」を提案した、センター事業(ミニバイク駐車場の建設)助成のため、昭和57年10月に財団法人日本宝くじ協会の助成金が受けられることになった、ある都市にセンターの有料制の施設ができると、他施設の整備についてもセンターに依頼する、近隣の他都市もそれに続くという波及効果が現れてきた。この結果、センター事業に対する信頼感が醸成され、有利性が理解されるようになったわけです。

森井 理想的な好循環でしたね。



JR春日井駅北口自転車駐車場。自然の採光を目的にしたガラス張りの壁面が特徴(立体自走式)



門真市駅南第1自転車駐車場。橋上駅化工事および同駅連絡道路橋工事に合わせ、その高架下を活用して建設(立体自走式)



保谷駅北口あらしき自転車駐車場。周囲の自然との調和をコンセプトに、駐車場上部を緑化公園にした(地下式)



自転車駐車場整備の “バイブル”を制作

黒川 第1期後半の4年間(昭和58～61年度)に整備した施設は115カ所、80,100台で、前半の4年間に比べ3倍近い実績でした。この結果、第1期の8年間に整備した施設は172カ所、116,400台に達しました。地域別では、首都圏82カ所、51,700台、近畿圏85カ所、63,200台、その他が5カ所、1,500台となり、当初少なかった首都圏がその後の情勢の好転で増えてきたのです。センター発足以来31年間に完成した施設は、累計で1,129カ所、734,000台に達しています。

森井 利用状況はどうでしたか。

黒川 初期は60%程度だったのが昭和61年には80%近くまであがってきました。自転車の「放置防止条例」

を制定し、取り締まりを強化する地方公共団体が増えたこと、自転車利用者も有料制にそれなりの理解を持つようになったからではないかと思われます。

森井 平成17年4月及び平成18年11月に道路法施行令の一部が改正され、自転車駐車場が道路の附属物として追加されるとともに、車輪止め装置等が占用許可物件として追加され、道路管理者だけでなく民間事業者等が設置できるように措置されたことも、大きな出来事でしたね。

黒川 ええ、それを受けて今後は電磁ロック式路上自転車等駐車場が増えると予想しています。また、三大都市圏以外の地域でも放置自転車対策は大きな課題となっていますので、

設置要請があれば広く要請に応じていく必要があると考えています。

森井 調査研究・広報活動についても目覚ましい業績を残されています。

黒川 ありがとうございます。近年の仕事でいいますと、平成19年、自転車等駐車場整備に関する技術的基準をまとめた「自転車等駐車場設置基準の手引き」をつくりました。平面構成、維持管理、商店街など場所別の設置の仕方、地域特性、一般的な基準を網羅したものです。もうひとつは、駅前放置自転車対策と自転車等駐車場を設置するためにどのような調査が必要かを教示した「駅前自転車駐車総合対策マニュアル策定に関する調査」。こちらは、街頭での指導法、撤去の仕方、ハードソフトの施策などをまとめています。いずれも自転車駐車場整備センターのHPから、どなたでもアクセスできるようになっています。

森井 30年以上にわたって、日本の



整備前



整備後

東京練馬区の光が丘公園は、かつて自転車で溢れていた(写真上)が、東京都の協力を得て園内の歩道に駐輪スペースを確保、美しい公園の姿を取り戻した(同下)



明石駅北自転車駐車場。JR明石駅から観る明石公園の景観に配慮し、建物が自然と同化するように駐車場壁面を緑化した



自転車駐車場整備を担ってきたセンターさんだからこそつくることができた、唯一の書籍です。いわば我々の“バイブル”ですね。

黒川 ありがとうございます。そして平成21年には「自転車等駐車場の緑化に関する検討調査」をまとめました。ヒートアイランド、CO₂対策だけでなく、街に安らぎを与え、住民に楽しんでもらう、さらに緑をいかに維持管理していくかも盛り込んでいます。兵庫県明石駅前の駐輪場はその好例と自負しています。明石駅

のホームから見ると、明石城と街並み、緑化された自転車駐車場が違和感なく溶け込んでいるんですよ。

森井 理事長が2年前に始めた自転車駐車場の表彰制度も、つくるだけでなく、その後の維持管理を重視している姿勢を象徴していますよね。

黒川 私は昔からなんと言っても現場主義ですから。現場にはしょっちゅう顔を出していますよ。

放置自転車の海外無償供与で 相手国の国づくりにも貢献

森井 もうひとつセンターさんならではの仕事が海外での活動です。地方公共団体から無償で払い下げてもらった引き取り手のない放置自転車を、発展途上国、団体宛に無償供与し続けておられますね。

黒川 基本的に学校の生徒へ供与しています。先だってケニア宛に初の供与を行い、私も行って参りました。ケニアの子どもは片道2時間かけて通学するケースも珍しくありませ

ん。自転車通学できれば時間が短縮され、その分、学習時間が増え、教育の発展につながるわけです。

森井 単純に自転車をプレゼントするのではなく、ひいては相手国の国づくりにも貢献するわけですね。

黒川 また、ケニアで自転車供与を受けたら、3本以上は苗木などを植林してください、という取り決めを交わしました。供与した自転車の分だけ将来のケニアに緑が増えていくわ

けです。さらに、私たちは自転車を海外へ運ぶ際には、分解して持っていきます。最初は技術員を派遣して、組み立て方を伝授するのですが、2回目以降は自国スタッフのみで職能訓練して、自転車の組立スキルを磨いていただくのです。

森井 そうやって技術が継承されていくのですね。

黒川 ケニアでの供与作業が一段落してから地元のレストランに入ったら、私たちが日本から自転車を持って来た人間と知られていましたね。店長から「どうもありがとう！」と言われて、非常に光栄でした。

森井 私も数年前、フィリピンのイザベラ州で州のお祭りに招待された際、センターの方と一緒に「この人たちが自転車をプレゼントしてくれた日本人です！」と紹介していただきました。すると観衆が「わあーっ」と歓声をあげてくれて、私も非常に誇らしい気分になることができました。

黒川 自転車は市民一人ひとりに行き渡っているの、彼らには日本の援助が染み渡っているんですね。



初回の放置自転車供与の際は、センターの指導者が自転車の組立指導にあたる(写真上) / 組立終了後は、受領対象者に無償で贈られる(タイ国シンブリ県)。平成3年からはじめて、9カ国22団体、約21万4,000台を供与してきた



国民が自転車を有効活用すれば 莫大な社会保障費の節減にも

森井 では、今後の展望、計画等について教えていただけますか。

黒川 自転車が主役の社会を本気でつくる時期が来ていると思います。地球に優しいというだけでなく、私たちは、石油エネルギーに過度に依存した生活を変換していく必要に迫られているのです。

森井 おっしゃるとおりです。

黒川 海外はその点、動きが早いんですよ。1987年に「環境と開発に関する賢人会議」が開かれ、同年にECが「自転車奨励決議」を決定。そして国連は、1992年のリオ・サミットで決議されたアジェンダ21、つまり「持続可能な開発」のための人類の行動計画を支持しました。すべての国で交通需要の少ない都市開発を行い、必要なら公共交通、自転車、徒歩を優先させるべきであるという方向性を出したんですね。

森井 同じ1992年にはオランダにも動きがありましたね。

黒川 ええ、アムステルダム市では早速、脱・自動車を目指し、住民投票を行って自転車専用道、路面電車、歩道を整備し、現在では2万9,000kmの自転車専用道が整備されています。他にも、ヨーロッパの諸国ではそれぞれ国会議事堂の横にも自転車専用道ができています。

森井 どうすればそうした街づくりができると思われますか。

黒川 まずは、地域の自立、連帯が大切だと思います。連帯というのは、

地域が国内の他地域、あるいは海外と手を結ぶということです。今の日本は、大樹に寄りかかっている、指示待ちの状態に浸かっているといえるかもしれない。人間が主役、自転車が主役。こういう意識がないと、いくら行政が旗を振ってもなかなか変わらないと思います。

森井 意識を変えていくためには、何が必要だと考えられますか。

黒川 その点でも必要なのは、やはり自転車だと思うのです。最近、オランダのあるテレビ番組で見たのですが、家族全員一人ひとりが自転車持っていて、2歳の子どもまで自転車に乗っている。上手く乗れない子どもを家族全員で励ましていると、その2歳の子どもも頑張っぺだるをこぎ、前に進んで行くんですね。自転車は自立心を育む格好のツール、道具になると思うのです。

森井 身体の鍛錬においても重要ですね。

黒川 健康医療、自己治癒力の増強に

役立ちます。人間の体重の約45%は筋肉であり、そのうち75%は下半身に集まっている。自転車は下半身の筋肉を鍛えるのうってつけです。さらに呼吸器、血管、海馬の鍛錬に加え、認知症予防にもなる平衡感覚バランスを保つ訓練もできます。

森井 なるほど。

黒川 そして公共投資の財政論からみても有効ですよ。自転車を使って皆が元気になれば、医療、介護、生活保護など莫大な社会保障費を節約できる可能性が高まります。森井社長のところでも、自転車に関連した多様な研究をなさっていますが、我々もそれを応援させていただきつつ、さまざまな取り組みを続けていこうと考えております。

森井 センターさんは自転車駐車場整備だけでなく、自転車の走行環境、システムづくり、パーキング業界への尽力など幅広い分野でご協力いただいております。これからもどうぞよろしくお願い致します。

